

～ ユネスコ憲章から ～

戦争は人の心の中で生まれるものであるから
人の心の中に平和のとりでを築かねばならない

令和5年度 総会・懇親会開催

令和5(2023)年度総会が6月5日(月)に福井市のハピリンで開催されました。議事に先立ち光野総会長は「コロナ禍の中で思い切った活動が出来なかった。これからようやく活動が活発になっていくと思います。例年通りの事業をこれまで通りやっていけるようこの1年ご協力ご支援をお願いします」と挨拶しました。総会では上程された令和4年度活動報告・収支決算、令和5年度活動計画案・収支予算案、理事役員案が承認されました。また具体的な活動については、広報・地域遺産部会、SDGs部会、チャリティ部会に加えて青少年教育部会の4部会で運営することと各部会の部会長・副部会長の選任案も了承されました。あわせて会員の各部会活動への積極的な参加も提案されました。またこの日は総会に続いて懇親会も行われ、自己紹介や近況報告などをまじえながら久しぶりの会話で和やかなひと時を過ごしました。



[新役員・理事、各部会長・副部会長は以下の方々です]

会 長	光野 稔	
副 会 長	野村 有三・遠藤富美夫・小竹三恵子	
理 事	市橋 真紀・中谷 恵子・伊藤 貴夫・真木 康之 杉本なみ子・達川 恭之	
監 事	玉森 慶三・三田 浩二	
広報・研修部会	部会長 伊藤 貴夫	副部会長 真木 康之
SDGs未来遺産部会	部会長 市橋 真紀	副部会長 福井 宇洋・達川 恭之
チャリティ部会	部会長 中谷 恵子	副部会長 石橋 文恵・高橋 ます
青少年教育部会	部会長 前 知代	副部会長 出蔵 直美

「プロジェクト未来遺産2022」登録証伝達式

若狭三方縄文博物館友の会「DOKIDOKI会」

若狭三方縄文博物館「DOKIDOKI会」の活動が、地域の文化・自然遺産の継承に取り組む市民の活動を登録する、日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産2022」に登録され、2023年7月8日に登録証の伝達式が若狭三方縄文博物館で行われました。



DOKIDOKI会は、2000年に開館した若狭三方縄文博物館（開館時は三方町縄文博物館）の友の会として2003年6月に発足した会で、今年は発足20年という節目の年にあたります。今回の未来遺産としての登録が、20周年の記念に花を添える形となったことは非常に喜ばしいことです。

日本ユネスコ協会連盟の矢野先生から同会の松村会長に登録証が手渡され、「登録を契機に、今まで以上に取り組み



の輪を広げ、後世に伝えていきたい」と意気込みを語っていらっしゃいました。

伝達式に先立っての昼食会では食部会のメンバーによる「縄文食」の昼食が振る舞われたり、縄文杉グッズ部会による縄文時代のスギの埋没株を使用したネックレスがプレゼントされたり、伝達式の最後には縄文語による「ふるさと」が披露されるなど、DOKIDOKI会の活動の一端を見せていただくこともできました。

今回の登録を機に、ふくいユネスコ協会とも様々な活動において連携していくことが期待されます。（記・達川恭之）



若狭町の歴史遺産の縄文文化を全国へ（日ユ・プレスリリースから抜粋）

日本海に面した若狭湾沿岸にある三方五湖の一つ、三方湖のほとりには縄文時代草創期から前期を中心とした低湿地遺跡である鳥浜貝塚がある。この貝塚の程近くに開館した若狭三方縄文博物館の初代館長 梅原 猛の理念に賛同し、縄文のもつ共生と循環の世界観を発信するために地域住民の有志により設立されたのが、若狭三方縄文博物館の友の

会「DOKIDOKI会」である。

博物館と縄文ロマンパーク、そして周辺に広がる三方五湖をフィールドとして、博物館と連携しながら、6つの部会（縄文の森づくり・くすりやさん部会、縄文食部会、縄文杉グッズ部会、広報部会、アンギン部会、縄文学研究部会）に分かれて、縄文文化の魅力を発信するためのさまざまな活動を行っている。

若狭町HP内での「DOKIDOKI会」紹介ページ

<https://www.town.fukui-wakasa.lg.jp/soshiki/wakasamikatajomonhakubutsukan/gyomuunnai/944.html>

田んぼ ファンクラブ

6月17日(土)に田んぼファンクラブの草取りに参加しました。場所は越前市白山地区です。初めに水辺と生き物を守る農家と市民の会の川端会長から「今日は暑くなりそうです。熱中症に気を付けて、水分補給を忘れないように作業にあたって下さい。無農薬でやっているの草取りが一番大事です。よろしくをお願いします」と挨拶があり、市民の会の皆さんと一緒に田んぼに移動。稲と稲の間のヒエやコナギ等などの草は、土をかきむしるようにつったり一本ずつ抜いて土の中に埋め込んで下さいと草取りのやり方を教えてもらってよいよ作業開始。今回のファンクラブからの参加者は35人。ノルマは1人が3列から4列。足が抜けなくなったり長靴に水が入ったり、腰が痛くなったりと悪戦苦闘する中、約1時間で終了の合図。ノルマが達成できたかどうかはわかりませんが大変な作業だということを実感した半日でした。草取りはこのあと稲がある程度成長するまで機械での除草が2、3回必要だということです。(記・伊藤貴夫)



私とユネスコ

浅井 光

ふくいユネスコ協会との出会いは協会設立前後に開催されていた子供たちが参加した国際交流事業であったと思います。今となっては、何のお手伝いをしたのかさえ忘れてしまいましたが、その縁もあっていつの間にか会員となりました。従ってユネスコの理念を深く理解し賛同し活動したいといった動機ではなく、私には出来ないけれど良いことをしているので年間数千円程度ならサポートしてもいいかな程度の意識であったのは事実です。

その後、転職先が若い世代と交流を図る必要のある職場であったこと、ある程度時間が作れるようになったこともあって一時事務局のお手伝いもさせて頂くようになりました。

恒例となったフォーラムやお茶会、宝の道、ブロック大会、中池見外来種駆除協力など多くの思い出がありますが、なかでもトルコへの世界遺産旅行は忘れられません。

前職場の退職間際に休みを頂いて参加したこの旅行は30年勤務した自分へのご褒美旅行でもあり、また一度は訪れたかった訪問地でした。コースとなっていたカッパドキアとは別行動でイスタンブール滞在を楽しみました。歴史

をたどれば東ローマ帝国の首都でありオスマントルコ帝国との攻防で陥落したコンスタンティノープルがここであり、ヨーロッパとアジア、東西文化の結節点ともいわれる地域です。現在でも、ウクライナの穀物が運ばれロシア艦隊が出入りする戦略的にも重要な海峡を持つ場所でもあります。

壮大なソフィアやアスパル貯水池も見ものでしたが、個人的にはアガサクリスティーで有名となったオリエント急行の発着駅を訪れること、トラムの通るイスティクルル通りで街を楽しむこと、サバサンドを食べること、トルコ風呂に入ることなどが目的でした。幸いにも、滞在組の野尻さん、山本さんと一緒に、水上バスでアジア側に上陸、対岸のムスクで礼拝に参加、ついでにムスクの便所を利用(笑)、地下鉄を使って新市街のショッピングセンターで買い物と想定以上の体験ができました。旅慣れたお二人にはいまでも感謝しています。

コロナもようやく終息の気配。会員の皆さんのますますのご活躍を祈念しております。

減災教育プログラム助成校に福井南高校

文部科学省およびユネスコ協会国内委員会後援事業で「アクサ・ユネスコ協会減災教育プログラム」2023年助成校に福井南高等学校が採用されました。全国で30校、福井県では福井南高校だけです。

福井南高校防災教育担当の夏目恵実先生によりますと「学校では2022年8月の南越前町豪雨災害をきっかけに、災害対策について本格的に取り組み始めました。また生徒は県内広範囲の地域から登校しており、生徒自身が住む地域特性はそれぞれ異なります。ここまでの災害対策についての取り組みとしては『衣』『食』『住』の観点から防災について考え始めているところです。8月末時点では、「衣」…衣類を通して、暑さ寒さ対策や感染対策について考える。「食」…防災食を調理し、試食して日頃の備蓄について考える。「住」…避難所設営に関して、特に支援を必要とする方々が利用する福祉避難所の設営について考える。』をそれぞれグループ学習で行っています。特に避難所設営に関しては、実際に避難所で必要とする

段ボールベットや簡易トイレを作り、耐久性について調べています。また避難所でのプライバシー対策についても、実際に本校の体育館を利用して対応を考え始めています。そしてこれらの学習をもとに、今年度の本校の防災訓練に関しては生徒が中心になって実施する予定です。また今年度は、本校で被災した場合にどのような対応が必要か、また高校生が地域において中間的なリーダーとしてどのような行動が必要なのかを中心に、本校ライフサポート系列の授業及び総合的な探求の時間の授業の中で学習していく予定になっています」とのことです。

なお、減災教育プログラムとは、東日本震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげることを目的に、日本各地で今後起こりうるさまざまな自然災害に備えるための防災・減災教育に取り組む全国の学校をサポートする事業です。今後日本各地で起こりうる自然災害に備えるために、子どもたちが学び、考え、行動する教育活動を応援するものです。

第79回 日本ユネスコ運動全国大会

2023年の全国大会は9月9日(土)に「富士山と若者」をコンセプトに、山梨県富士吉田市で開催されました。大会は「ユネスコの歌」の斉唱で始まり主催者挨拶、来賓祝辞、「富士山と浮世絵～お江戸にタイムスリップ、浮世絵のデジタル化が明かした江戸庶民の文化～」をテーマに記念講演が行われました。

続いて大会コンセプトでもある「若者」がパネラーを務めたパネルディスカッションが「ユネスコの今と未来 私たちはこう考える」をテーマに行われました。この中でパネラーからは「問題意識を持ち、知り知る努力をすること。人は見た目ではなく内面を重要視すること。世界中に友達を作り、つながることで平和のとりでを築く。楽しい企画を作り各自の得意分野を生かす。大人は知恵と経験と技を、若者はありあまる体力を。ユネスコ協会や活動については情報も少ないし知らない。」といった意見が出されました。これを受けてコーディネーターの望月浩明さんは「協会員の高齢化が進む中、協会を知ってもらい、どういう形で活動に参加してもらえるかを十分に考えなければいけない」と結びました。

最後に次期開催県の愛媛県新居浜ユネスコ協会への引継ぎ式が行われ、大会を終了しました。



2023年度 下期行事予定

2023年10月7日(土)

中部西ブロック・ユネスコ活動研究会(三重県津市)

2023年11月25日(土)

ふくいユネスコフォーラム2023(若狭町)
宝の道(三方湖畔の船小屋と鳥浜貝塚他)

2024年3月24日(日)

チャリティ茶会



ふくいユネスコ協会

910-0003 福井市松本4丁目8-4 生涯学習課分室内 TEL&FAX 0776-22-8181

E-mail fukuiunescoasnjapan@white.plala.or.jp